

# 2019年3月期 決算説明会

2019年5月28日



パンチ工業株式会社

(証券コード: 6165 東証第一部)

# 本日の内容

---

## 【第一部】

1. 2019年3月期 決算概要
2. 2020年3月期 業績予想

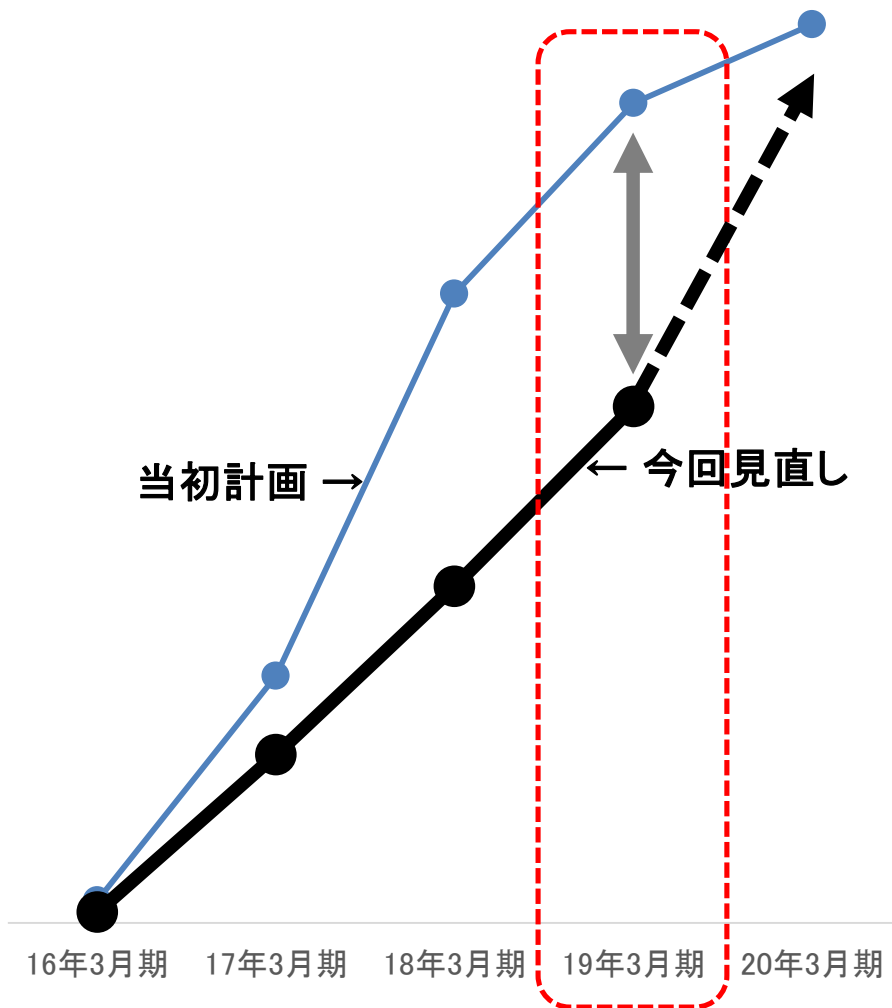
## 【第二部】

3. 2020年3月期の取組み

# 1. 2019年3月期 決算概要

# はじめに～2019年3月期の大幅減益について

ベトナム工場売上推移(イメージ)



■ 前期純利益大幅減益  
2018年3月期:17億円  
→ 2019年3月期:9億円

■ ベトナム工場減損  
生産体制確立遅れ  
市況悪化

■ 「VC2020」  
基本スタンス不変

# 2019年3月期 決算ハイライト

日本・海外ともに米中貿易摩擦の影響等から減収減益。

売上	連結	連結売上高は、前期比99.8%、89百万円減の409億円。
	日本	前期比97.8%の167億円。 自動車関連と電子部品・半導体関連の伸長率が鈍化。
	中国	前期比99.0%の198億円。 戦略製品は伸長したが、自動車関連等が第3四半期に入ってから減速。
	その他	前期比113.0%の42億円。 引き続き、欧州を中心として好調に推移。
利益		営業利益は前期比90.7%の25.7億円。 経常利益は前期比93.2%の25.4億円。 親会社株主に帰属する当期純利益は前期比53.7%の9.6億円。
ネット資金		ベトナム工場への投資等により、期首から9.3億円減少。



# 損益計算書サマリー

(単位:百万円)

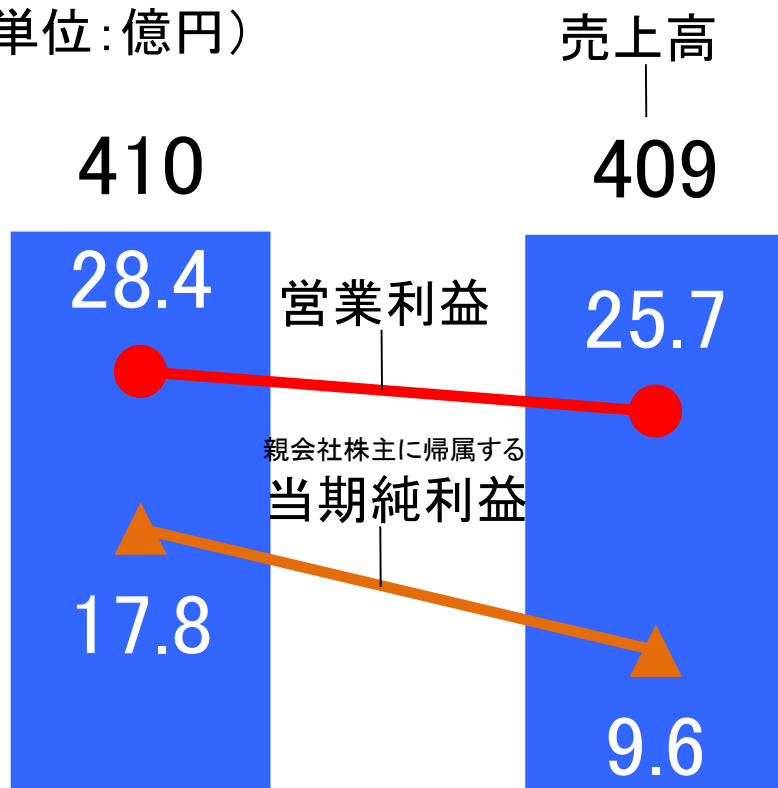
	2018年3月期 (実績)	2019年3月期			
		修正予想 (2019/4/12公表)	実績	前期差 (前期比)	修正予想差 (修正予想比)
売上高	41,025	40,900	40,935	▲89 (99.8%)	35 (100.1%)
営業利益	6.9% 2,843	6.2% 2,550	6.3% 2,578	▲264 (90.7%)	28 (101.1%)
経常利益	6.7% 2,731	6.1% 2,500	6.2% 2,547	▲184 (93.2%)	47 (101.9%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	4.4% 1,788	2.4% 1,000	2.3% 960	▲828 (53.7%)	▲39 (96.0%)



# 売上高と営業利益の推移

米中貿易摩擦の影響等から減収減益。

(単位: 億円)



【前期比較】

売上高	89	百万円	減収		
営業利益	2	億	64	百万円	減益
純利益	8	億	28	百万円	減益

※親会社株主に帰属する当期純利益

2018年3月期  
(実績)

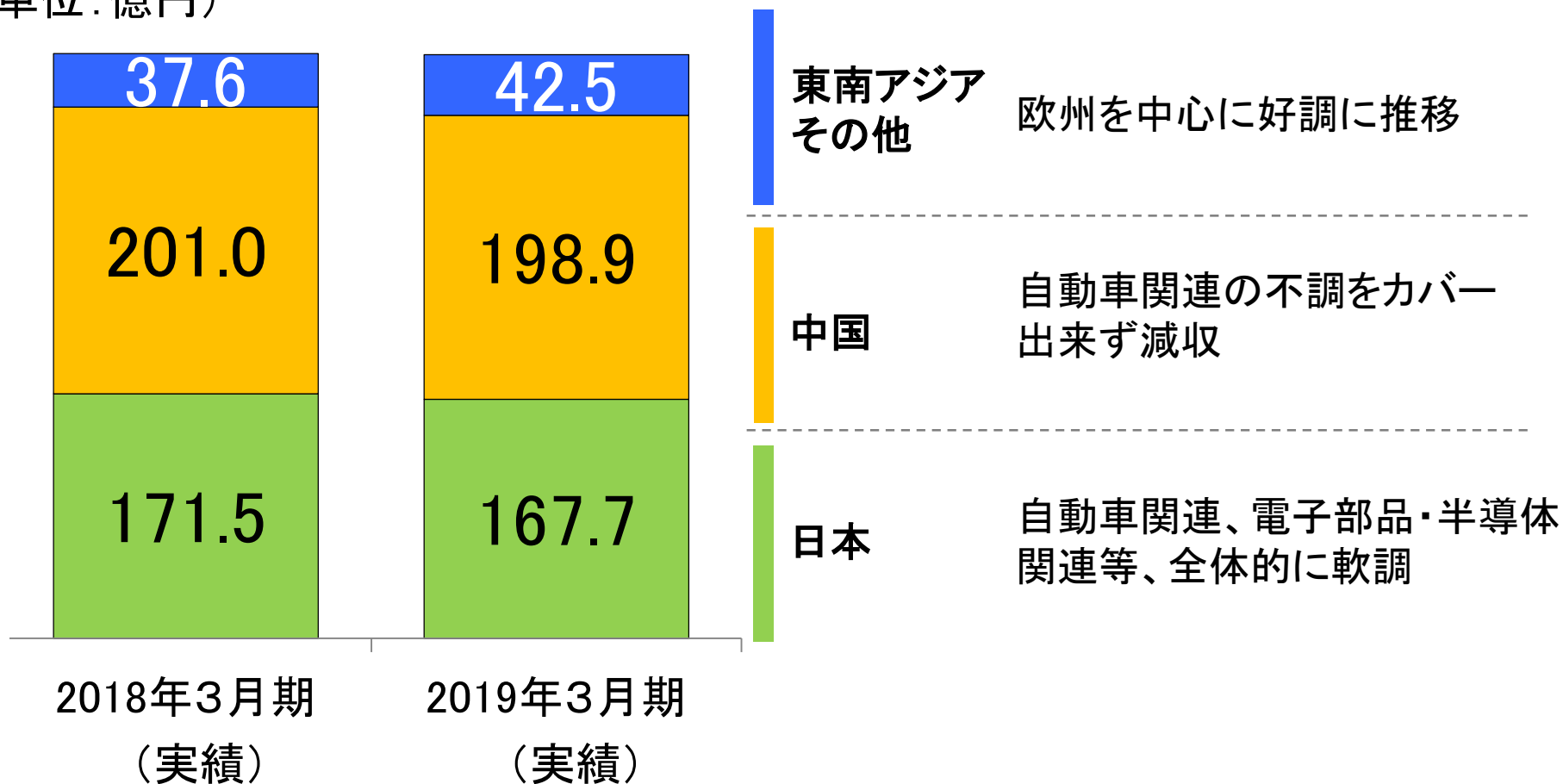
2019年3月期  
(実績)



# 地域別売上高

東南アジア・その他地域は増収を達成。

(単位:億円)

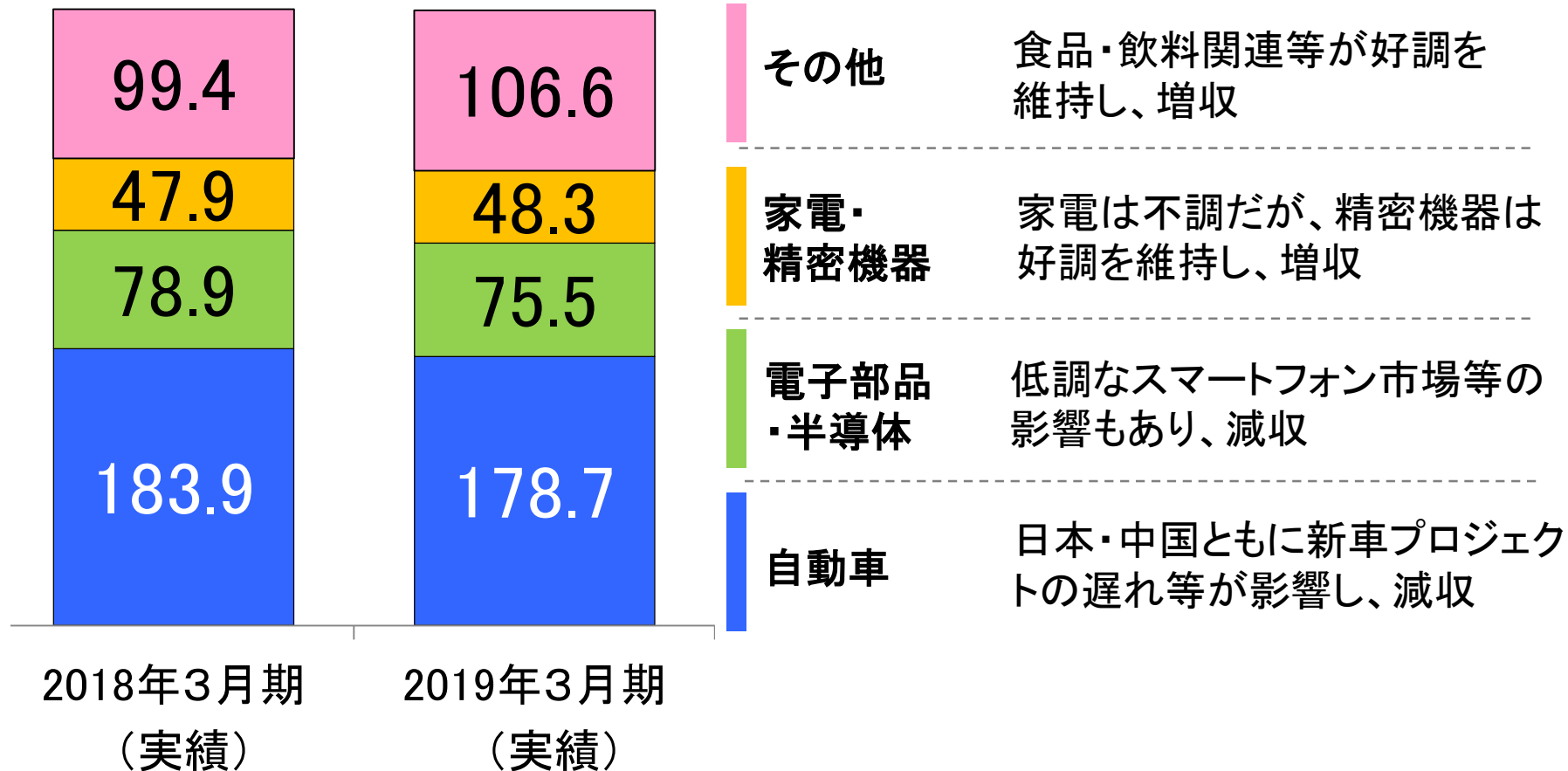




# 業種別売上高

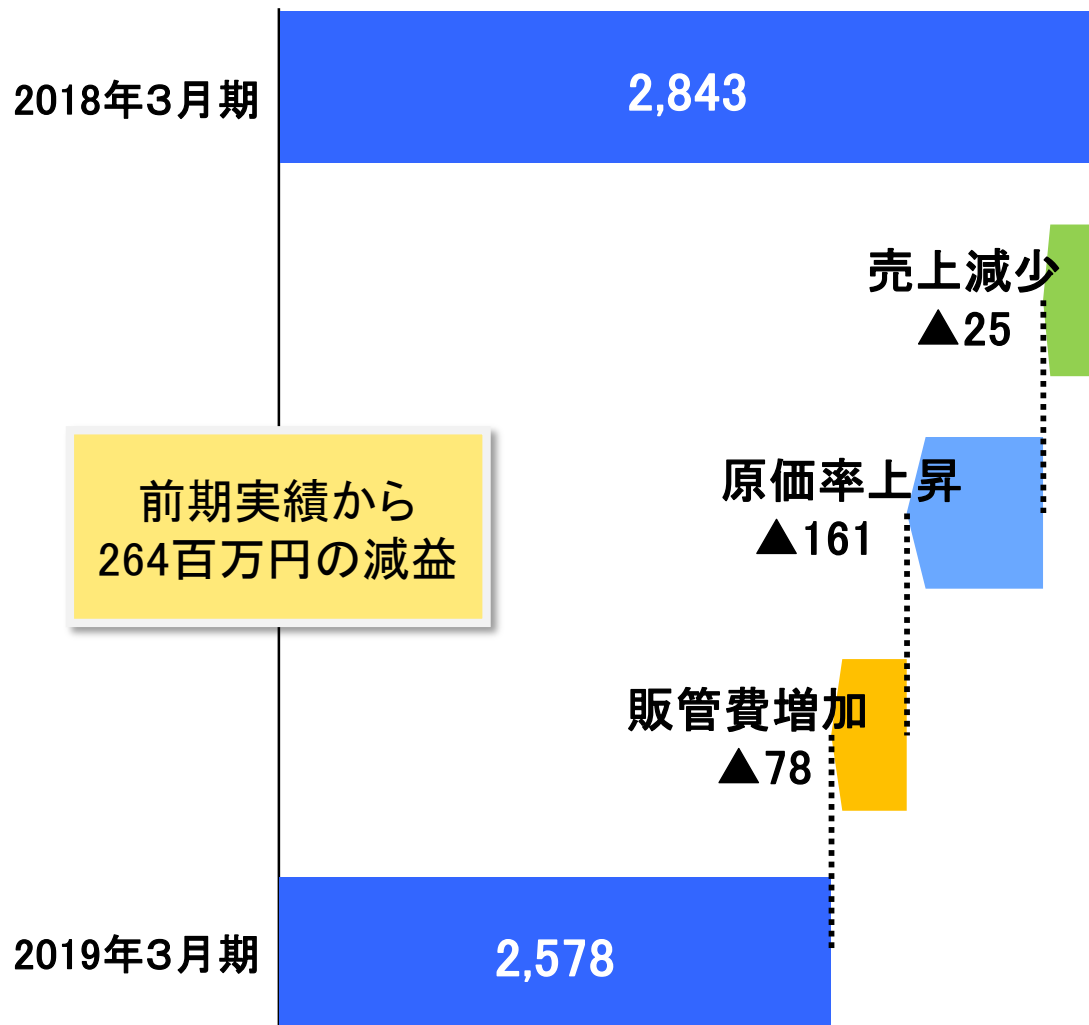
その他が好調を維持。

(単位: 億円)



# 営業利益増減

(単位:百万円)



## 【売上の主な増減要因】

■日本及び海外での自動車関連及び電子部品・半導体関連の減収

## 【原価率の主な増減要因】

■日本及び海外での受注減少に伴う工場の操業状況の悪化による原価率の上昇

## 【販管費の主な増減要因】

■グループ全体で抑制に努めたものの、減価償却費等の増加



# 貸借対照表サマリー

(単位:百万円)

	2018年3月期末	2019年3月期末	比較増減
総資産	32,560	31,155	▲1,405
総負債	16,385	15,420	▲965
うち有利子負債	6,332	7,079	747
純資産	16,174	15,734	▲440
ネット資金	▲2,561	▲3,499	▲938

自己資本比率	49.6%	50.4%	0.8pt
自己資本利益率(ROE)	11.8%	6.0%	▲5.8pt

設備投資額(無形固定資産含む)	2,776	2,989	213
減価償却費(無形固定資産含む)	1,597	1,729	132



# キャッシュ・フローサマリー

(単位:百万円)

	2018年3月期	2019年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,393	3,185
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲2,335	▲3,253
フリーキャッシュ・フロー	1,058	▲68
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲738	74
現金及び現金同等物の増減額(換算差額含む)	419	▲172
現金及び現金同等物の期末残高	3,689	3,516



## 2. 2020年3月期 業績予想



# 2020年3月期 業績予想概況

2019年3月期に引き続き、不透明感のある市場状況であり、減収減益を予想。

売上	連結	ベトナム工場 第2フェーズを推進、欧米での販売体制強化等、体質強化や構造改革を推進し、前期比97.7%の400億円を見込む。
	日本	重点的に取引を強化するお客様と新規取引を狙うお客様を設定し、前期比97.5%の163億円を見込む。
	中国	非自動車業界向け売上比率の拡大を目指し、新規製品・新規工法の開発を行うことで高付加価値製品を拡販し、前期比96.4%の191億円を見込む。
	その他	米国・東南アジア・インドでの事業拡大及び欧州での販路拡大を行うが、米中貿易摩擦の影響等もあり、前期比104.7%の44億円を見込む。
利益		ベトナム工場の事業体制は身軽となったものの、大きなウエイトを占める中国事業の減収見込みもあり、営業利益は20億円、当期純利益は14億円を見込む。



# 2020年3月期 業績及び配当の予想

(単位:百万円)

	2019年3月期 (実績)		2020年3月期 (予想)		前期差	前期比
売上高		40,935		40,000	▲935	97.7%
営業利益	6.3%	2,578	5.0%	2,000	▲578	77.6%
経常利益	6.2%	2,547	4.8%	1,900	▲647	74.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2.3%	960	3.5%	1,400	439	145.8%
自己資本利益率 (ROE)		6.0%		8.5%	2.5pt	

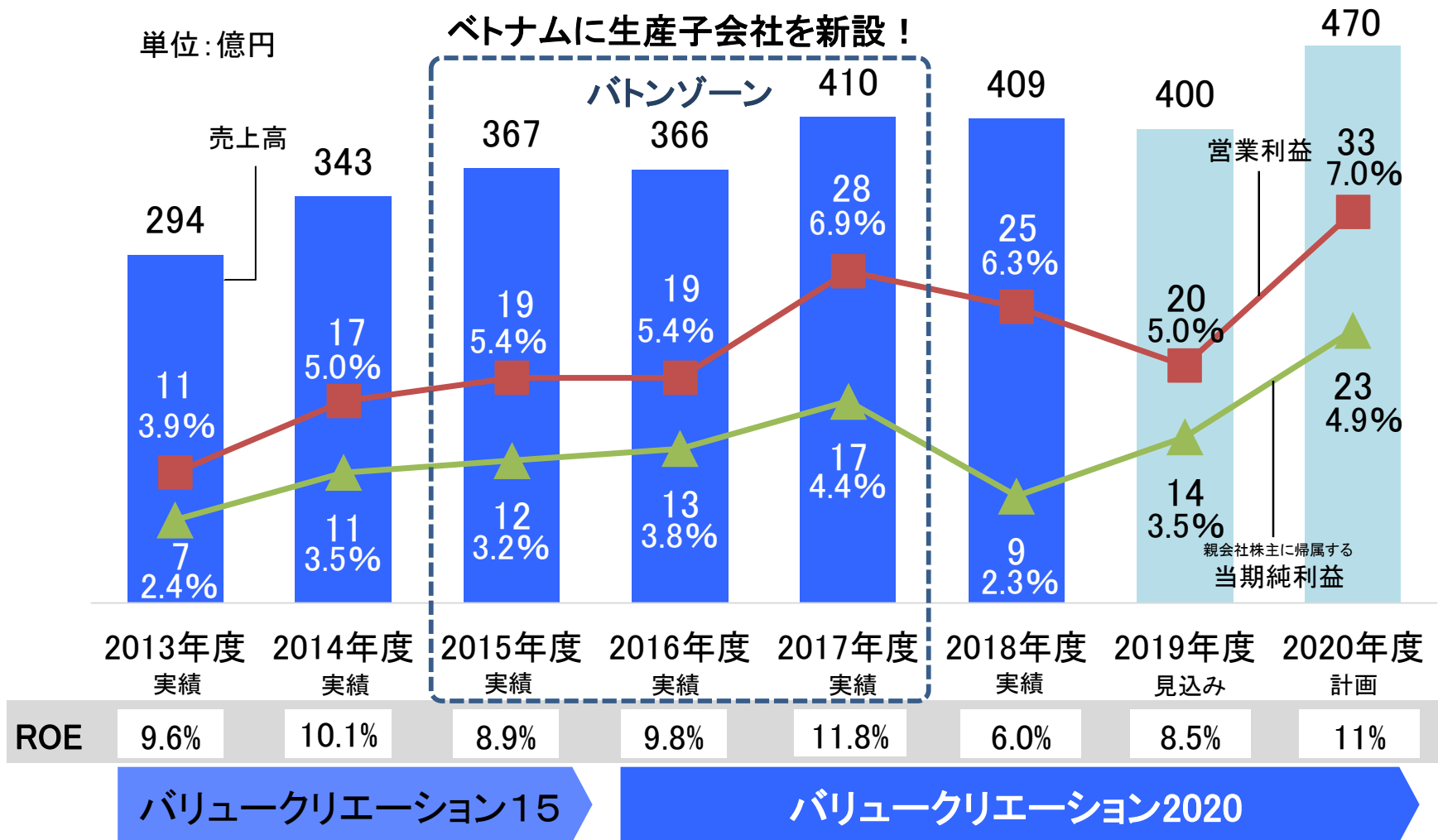
2020年3月期  
配当予想

16円80銭 = 中間 8円40銭 + 期末 8円40銭



# 経営目標 売上・利益の推移

2020年度 売上高**470億円以上** 営業利益**33億円以上** 当期純利益**23億円以上**

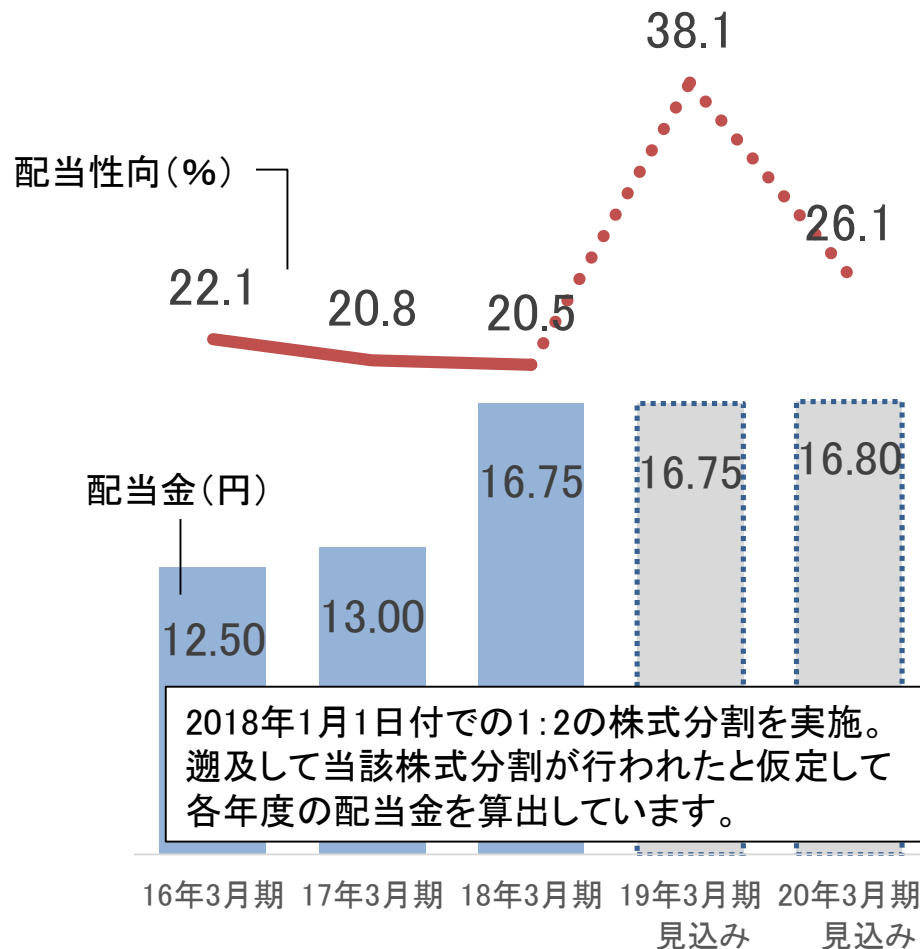




# 1株当たり配当金と配当性向

## 【配当方針】

安定かつ継続的な配当に加え、業績連動により連結配当性向20%以上を目安としており、増配基調を維持しつつ、段階的に引き上げることが目標。



継続的企業価値向上の基盤は、株主の皆様からの「信頼」と「応援」であり、「期待」にお応えすることが経営上の重要課題。

2020年3月期の配当  
中間・期末ともに8円40銭  
＝16円80銭予定(5銭増配)

## さいごに～今年度の取組みについて

---

ベトナム工場

国内事業

中国事業

販売5極体制

次の中長期経営計画に向けて



# 3. 2020年3月期の取組み

# 連動する「バリュークリエーション」の重点経営課題

バリュークリエーション15

グローバル化

新市場の開拓

高収益事業  
モデルへの転換

バリュークリエーション2020

販売5極体制の確立

お客様サービスの向上

高収益事業の推進とR&D強化

働き方改革



# ベトナム工場での取組み

## 第1フェーズ

2017年3月期～2019年3月期

## 第2フェーズ

2020年3月期～

日本 低原価の半製品利用による原価低減 > ベトナム工場へのカタログ品生産移管(一部) > 日本工場での特注品生産強化



ベトナム 中国工場から半製品生産移管 > 日本へ低原価の半製品を供給 > 日本工場からカタログ品生産移管 > カタログ品の生産能力強化



中国 ベトナム工場への半製品生産移管 > 中国工場での特注品生産強化

..... 進行中 .....

半製品生産移管が完了  
日本工場へ供給を開始



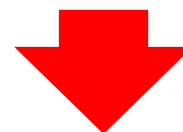
ベトナム工場から日本へ  
カタログ品の供給を開始



# 国内での取組み



■2019年2月より北上第三工場が稼働



高収益事業の推進へ向け、新たな価値を創造する「**開発本部**」を新設

- ・新規事業の育成を推進
- ・既存製品の工法改善と原価低減
- ・新たな加工技術、表面処理の開発 等

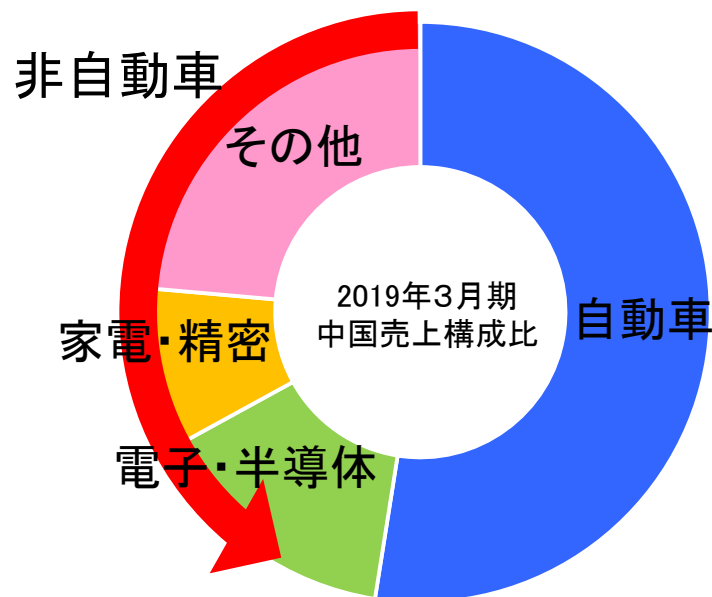


## 国内生産の強化

高付加価値生産＋特注品シフト加速



# 中国での取組み

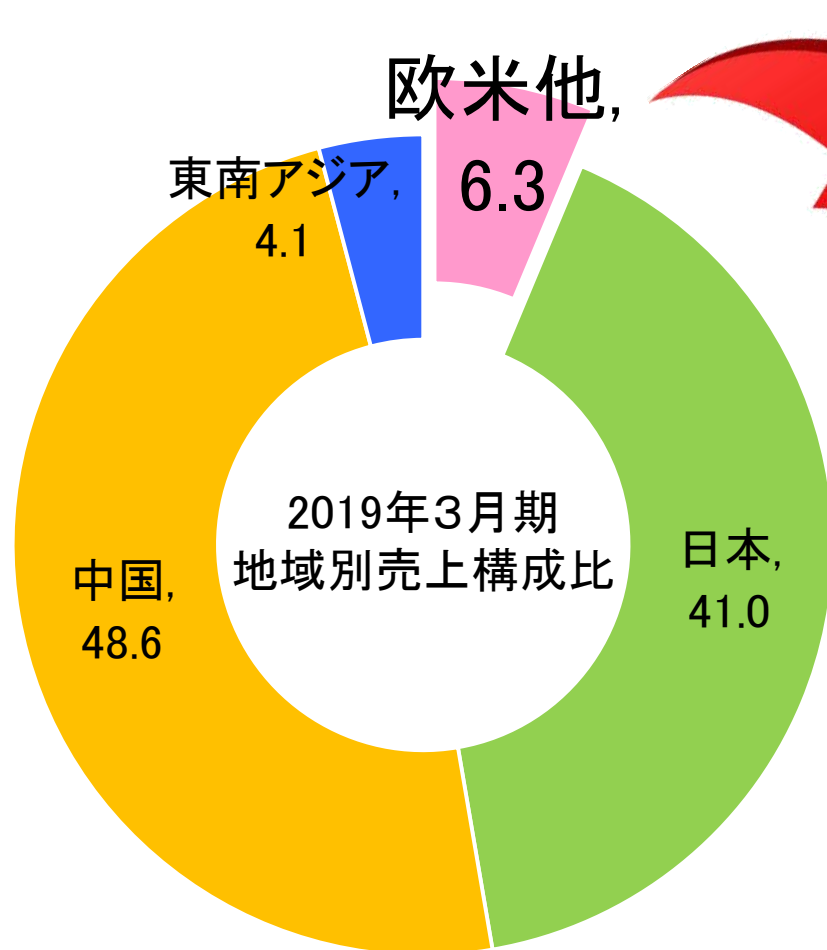


■ 非自動車業界向け売上比率拡大

■ 戦略製品の販売拡大  
⇒ 製罐製品の再拡販

■ 開発本部強化  
⇒ 新規製品・新規工法の開発

# 販売5極体制の確立



- 欧米戦略室を新設
    - ・ 欧州 販売代理店との協業
    - ・ 米国 2017年に現地法人設立
- ⇒ 更なる販路開拓を目指す



# 2020年3月期以降の取組み

心算 がんばれ!!



パンチスピリット

■ 販売5極体制  
⇒ 欧米販路の拡大

■ お客様サービスの向上  
⇒ 飲料・医療関連の技術向上

■ 高収益事業の推進とR&D強化  
⇒ ベトナム工場 第2フェーズ推進

■ 働き方改革  
⇒ 新人事制度運用、生産性改革



# 参考資料





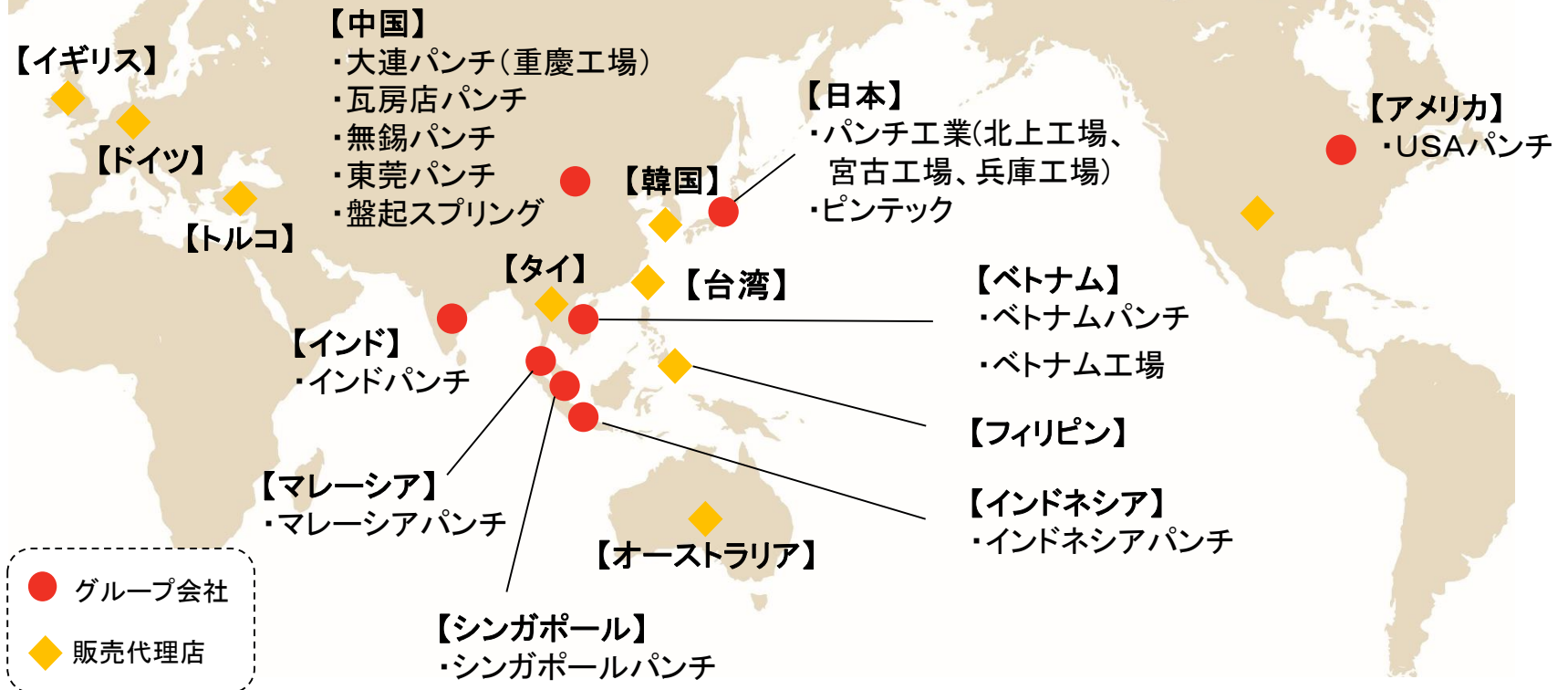
# パンチグループのネットワーク

## 生産拠点数

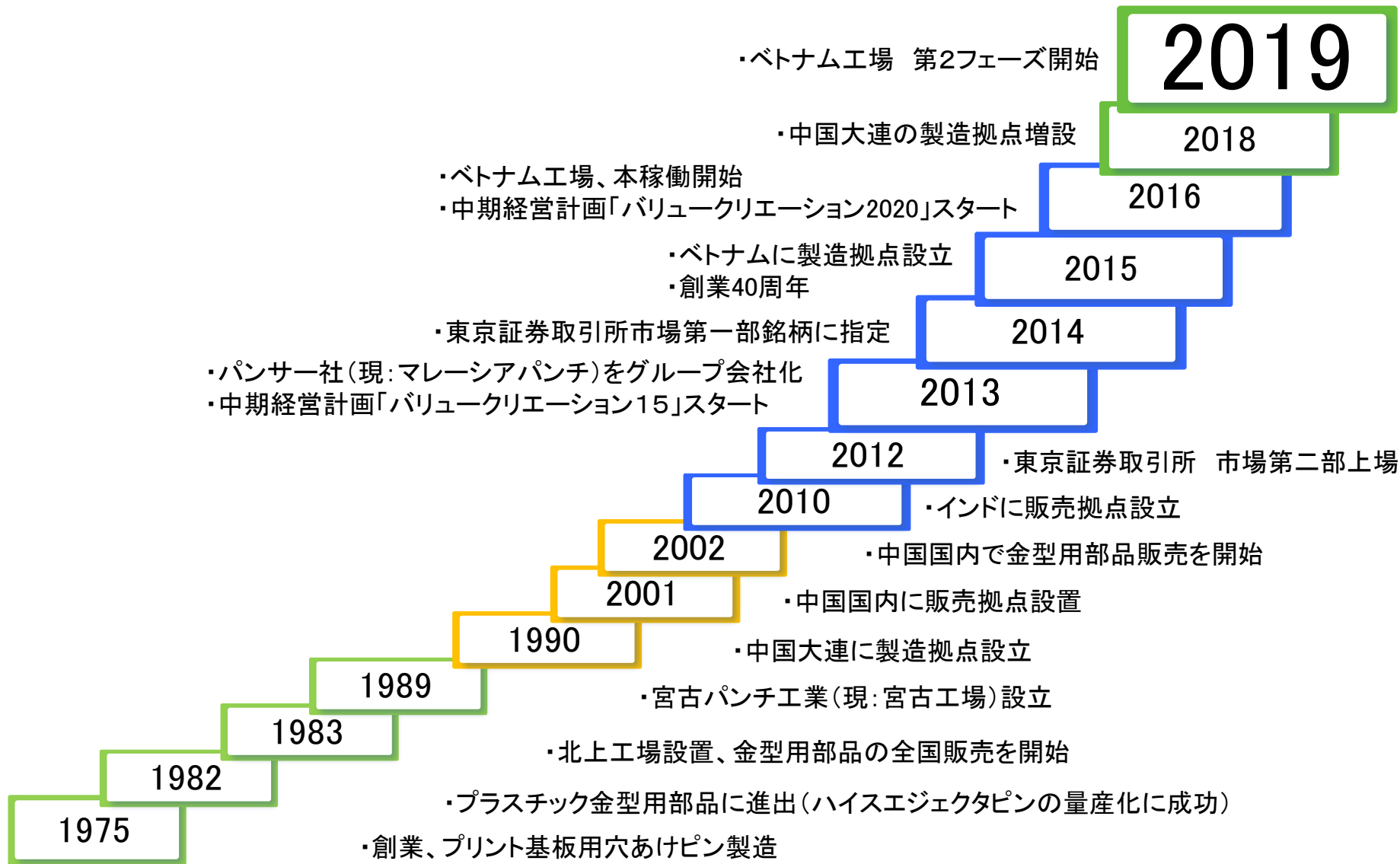
日本	海外
4 カ所	8 カ所

## 販売拠点数

日本	海外
12 カ所	40 カ所

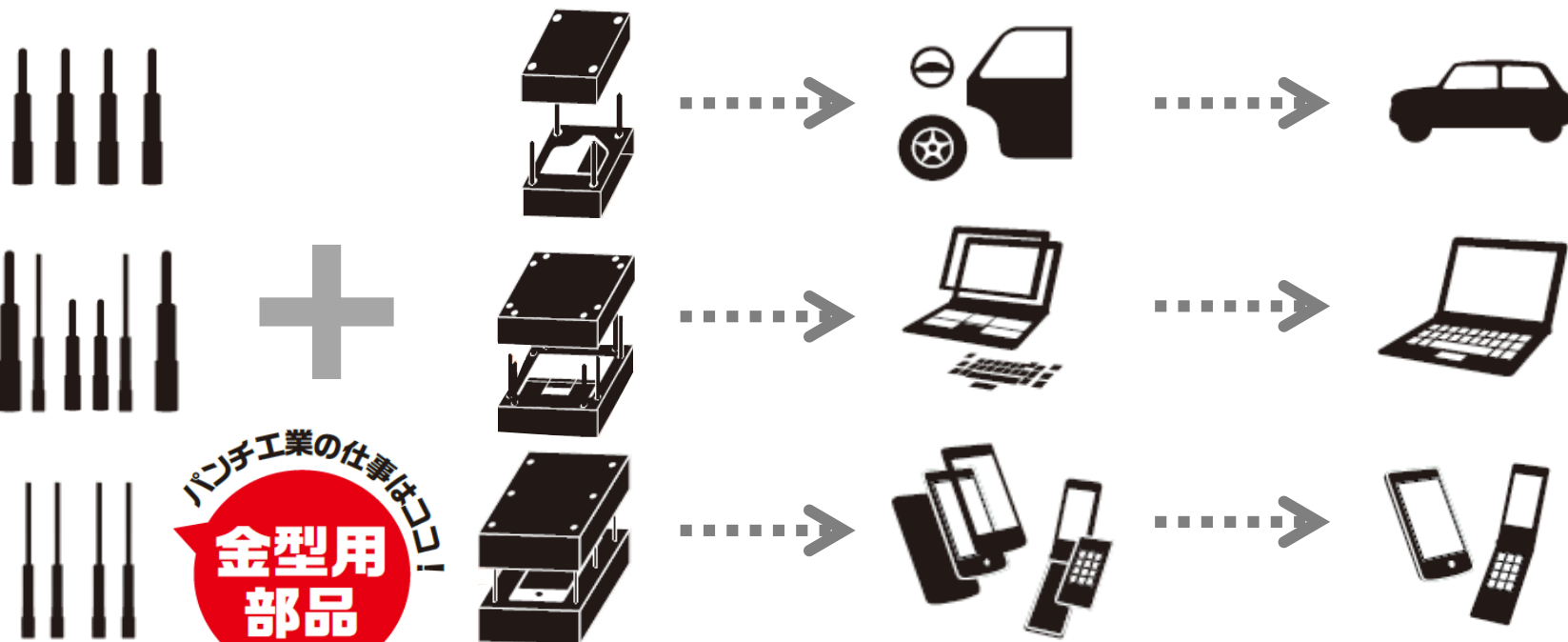


# 沿革



# 事業内容

金型を構成するために、なくてはならない多種多様な精密部品の製造・販売



たとえばこんな部品



## 金型

構成部品を速く、  
均一に、大量につ  
くるための金属で  
できた「型」

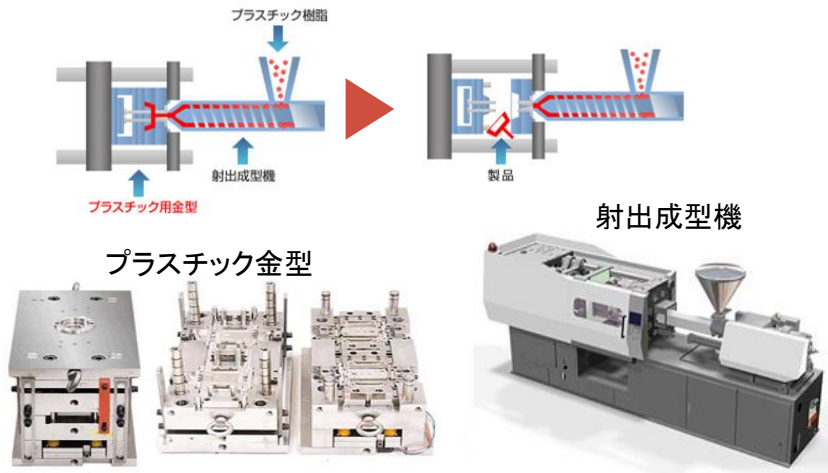
## 構成部品

製品を構成する  
ために必要となる  
パーツ

## 製品

自動車や家電など  
私たちが身近で使  
うさまざまな製品

# プラスチック金型と金型用部品



エジェクタピン



スプルーブシュ・ロケートリング

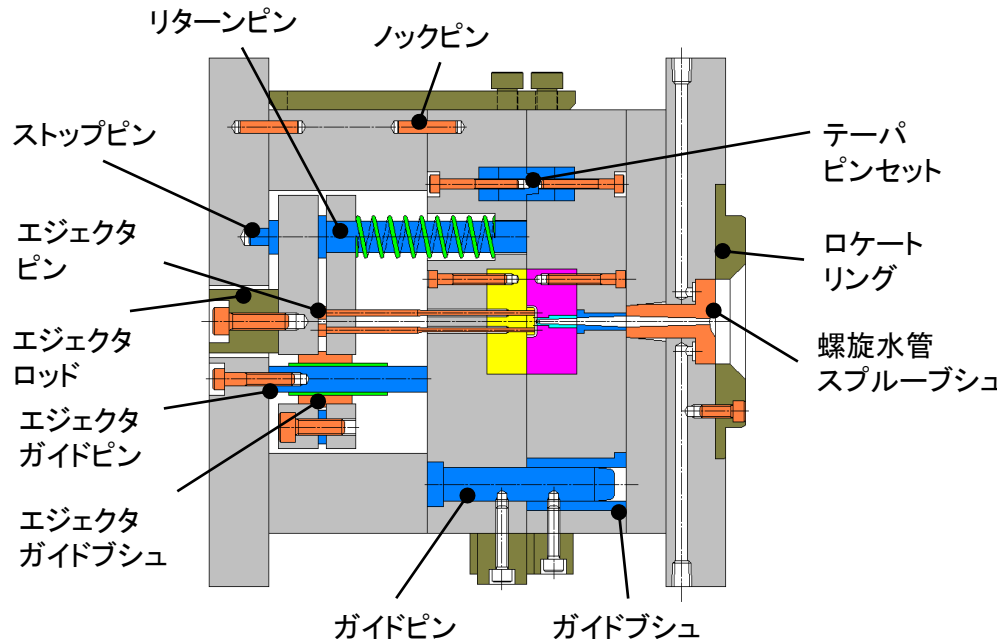
## ●プラスチック金型用部品について

プラスチック金型とは、携帯電話やデジタルカメラの外装など、多くのプラスチック製品の製造に用いられる金型であり、加熱溶融したプラスチック樹脂を、射出成型機に実装された金型に注入し、冷却、固化することにより製品が作られております。

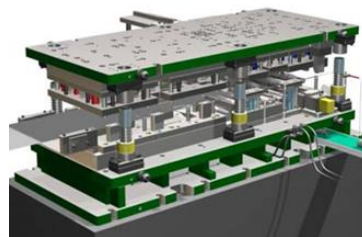
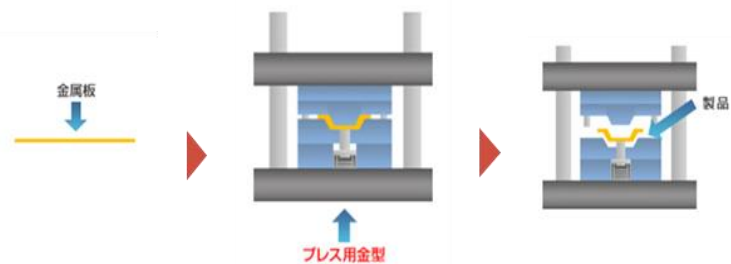
当社グループでは、広範なプラスチック製品の射出成型用金型に組み込まれるエジェクタピン、スプルーブシュ等のプラスチック金型用部品の製造・販売を行っております。

**エジェクタピン**・・・ 成型品を金型から離し、突き出すための部品

**スプルーブシュ**・・・ 射出成型機の射出ノズルから溶融したプラスチックを金型へ流し込むための部品



# プレス金型と金型用部品



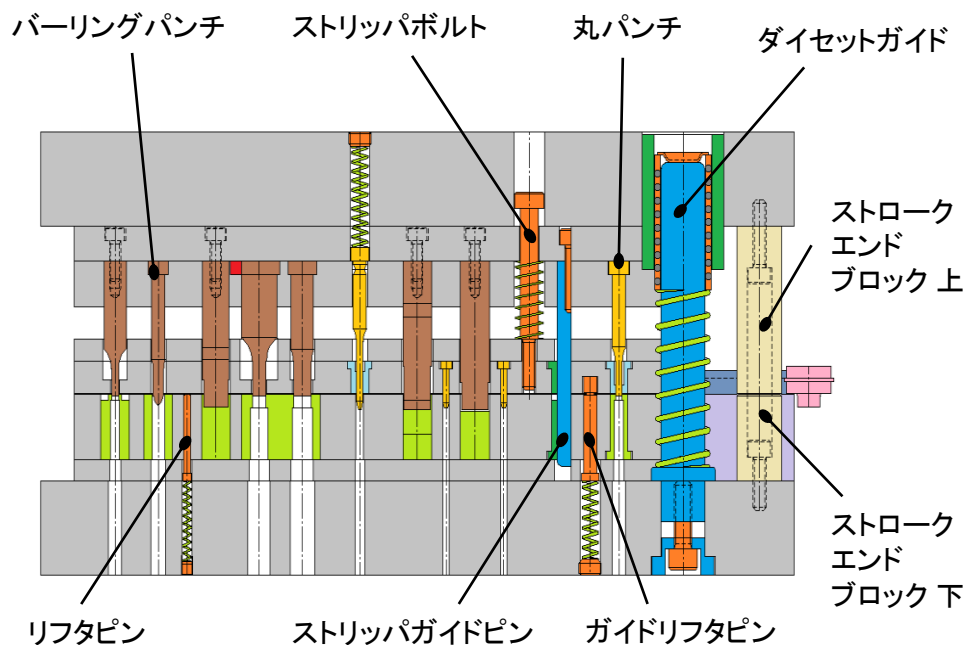
プレス金型



パンチ



ダイセットガイド



## ●プレス金型用部品について

プレス金型は、プレス機(上下運動する機械)に金型を装着し、上下に分かれた金型の間に材料(金属の鋼板)を入れ、プレス機を稼働することにより、金型で型どられた製品が出来上がります。

当社グループでは、自動車、家電、精密機器などを大量生産するために必要な、プレス加工で使用される金属の鋼板を打ち抜く際に使用するパンチ・ダイ部品、金型の上下の動きを保持するガイド部品等のプレス金型用部品の製造・販売を行っております。

- パンチ…………… パンチは材料に推しつけて使われる工具で、通常はダイと対で使われ、材料に穴をあけたり、形状を転写する部品
- ダイセットガイド… 上型と下型の関係を正しく保つために使用する部品





## お客様に高い満足度を提供



### カタログ品

汎用性の高い標準製品を  
豊富にラインナップ

スピーディーな  
ソリューション

### 特注品

カスタムニーズにも  
柔軟に対応



### 一気通貫の生産体制

2,000台以上の設備で幅広い対応力

### お客様密着型の営業体制

きめ細かな対応・提案力

### 高い技術力

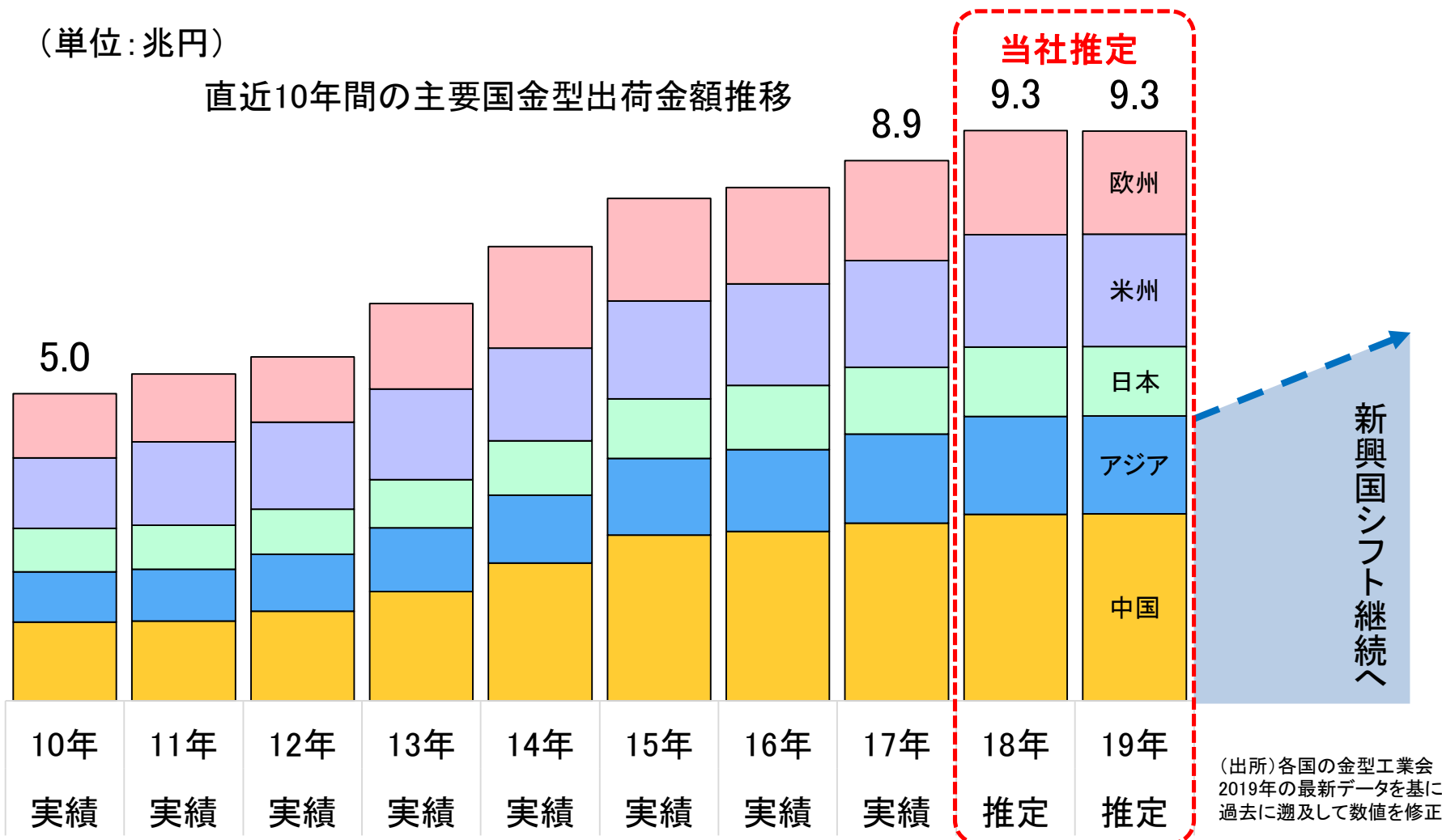
創業以来培ったノウハウとたゆまぬ研究開発

# 金型市場の予想(金額)

リーマンショック直後をボトムに着実に右肩上がりの金型市場。

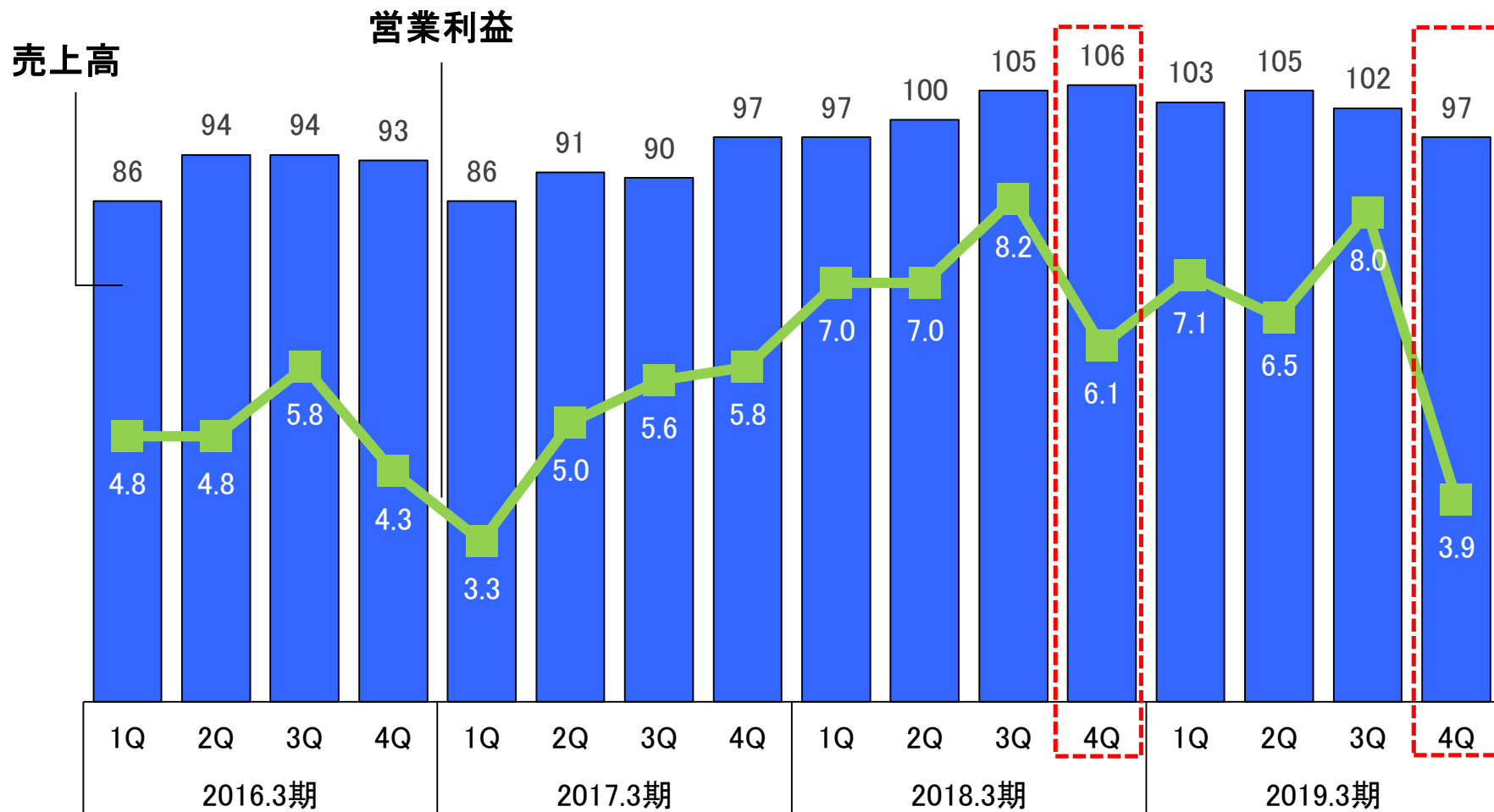
(単位:兆円)

直近10年間の主要国金型出荷金額推移



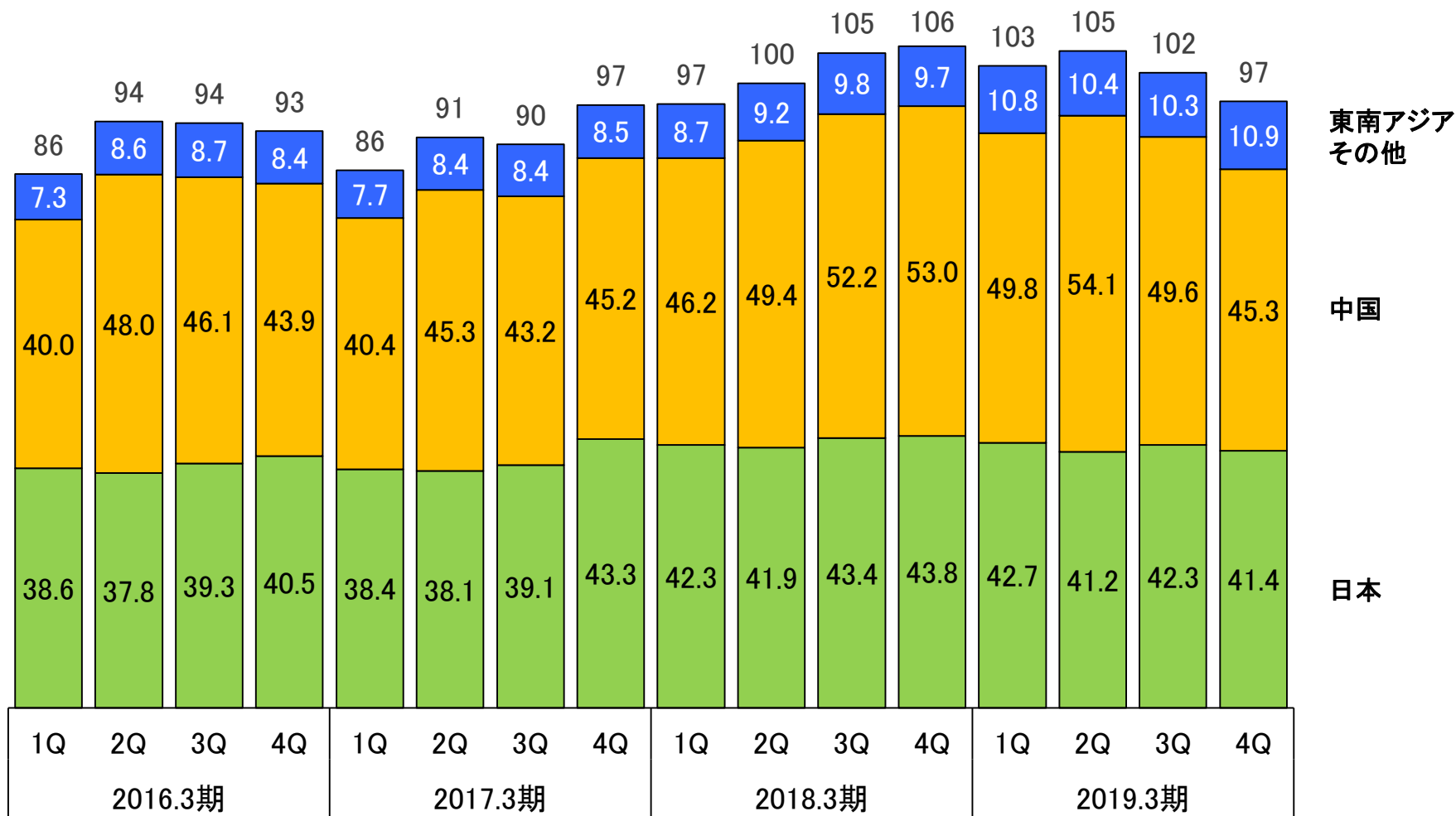
# 売上高と営業利益の推移

(単位: 億円)



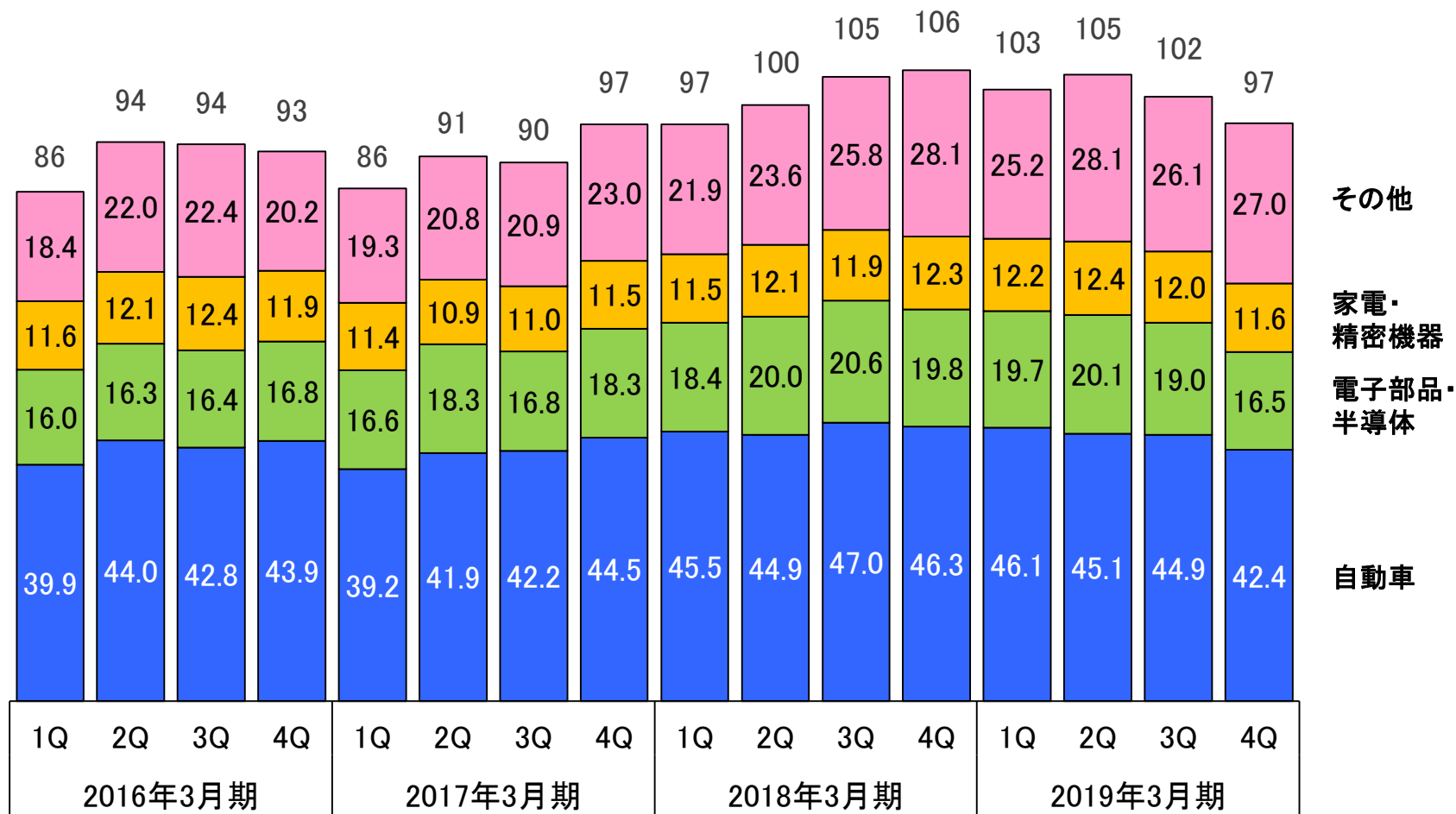
# 地域別売上高

(単位: 億円)



# 業種別売上高

(単位:億円)



注) 中国における業種区分修正に伴い、2017年3月期のデータを修正



# CSR経営と企業ビジョン

## CSR経営

世界のものづくりを支える企業であり続けるために  
CSR経営を実行しています。

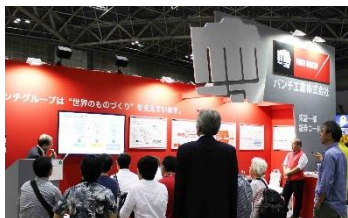
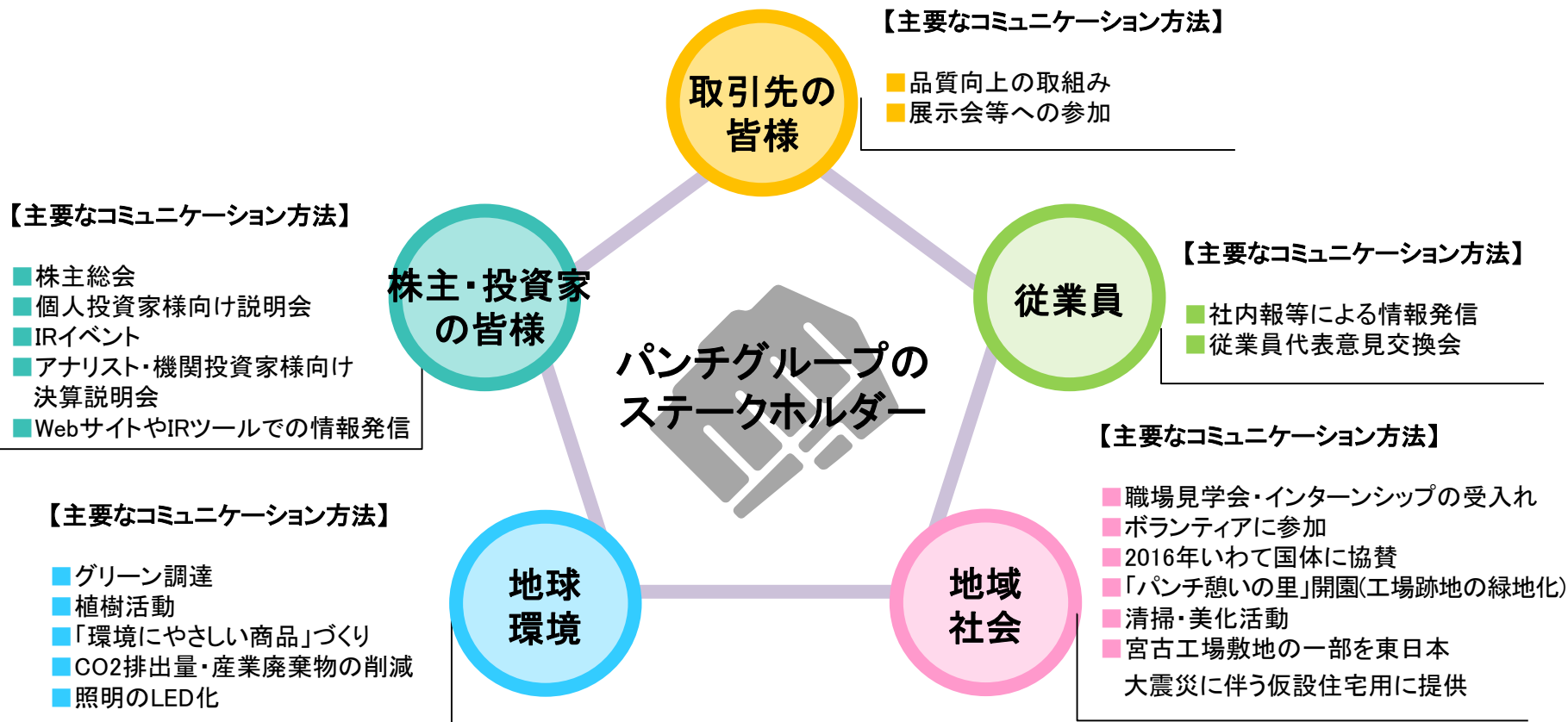
## 企業ビジョン



## 世界のパンチへ

金型部品業界での  
トップブランドを確立し  
製販一体企業としての  
優位性を活かした  
高収益企業を目指す

# ステークホルダーとのコミュニケーション



IRイベント出展



「パンチ憩いの里」開園  
(工場跡地の緑地化)



職場見学会



ボランティア活動  
(2016年いわて国体)

本日は、誠にありがとうございました。



【IRに関するお問い合わせ先】 パンチ工業株式会社 経営戦略室 広報課 電話:03-5753-3130 e-mail:info-corp@punch.co.jp

**【将来見通し等に関する注意事項】**

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。  
本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。  
また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。  
本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。